

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

26年 6月 日

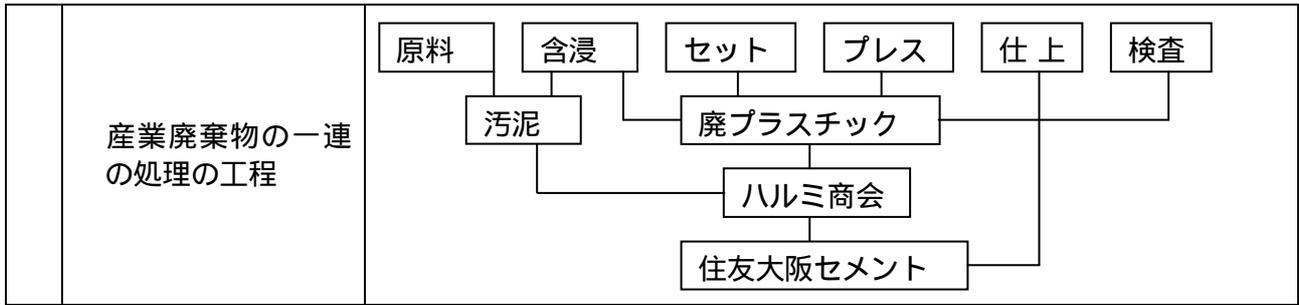
兵庫県知事 殿

提出者

住 所 兵庫県加西市北条町横尾395  
氏 名 アイカハリマ工業株式会社  
代表取締役 田中 彰  
(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)  
電話番号 0790-42-0631

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	アイカハリマ工業株式会社 加西工場
事業場の所在地	兵庫県加西市網引町字丸山2001-42
計画期間	平成26年4月1日～平成27年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
事業の種類	1833 その他の工業用プラスチック製品製造業
事業の規模	製品生産高 3740百万円 (平成25年度実績)
従業員数	57名

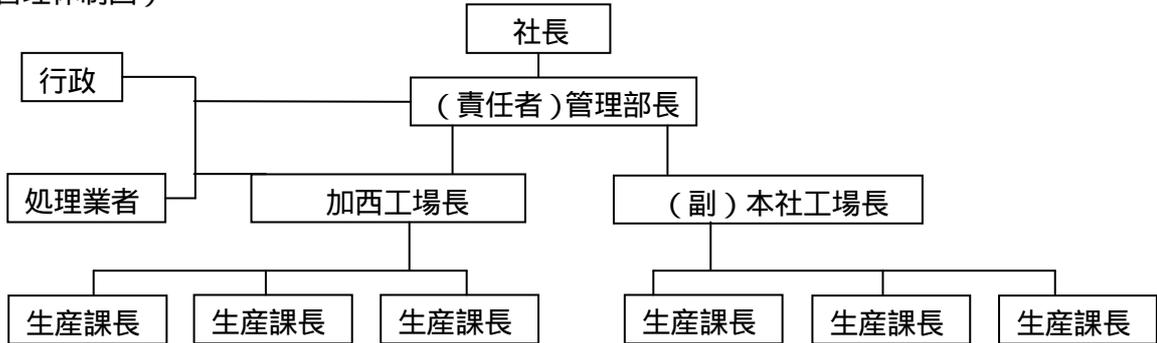


(日本工業規格 A列4番)

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

現状

【前年度( 24 年度)実績】		
産業廃棄物の種類	廃プラスチック	汚泥
排出量	1287 t	31 t

(これまでに実施した取組)  
 製品不良削減させる為にミニプロジェクトを立ち上げ活動。  
 分別活動を更に細分化し、有価処理への変更を実施。

計画

【目標】		
産業廃棄物の種類	廃プラスチック	汚泥
排出量	1380 t	31 t

(今後実施する予定の取組)  
 生産は前年比10%アップが目標であるが  
 ミニプロジェクトの継続実施により、不良品の発生を抑制。  
 不良品のリデュース化。  
 有価処理の拡大。

産業廃棄物の分別に関する事項	
現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 工場敷地に4箇所の保管場所を確保。 廃プラ・汚泥・一般ゴミの分別回収を実施している。
計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現状維持

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
現状	【前年度(                      年度)実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
現状	【前年度(                      年度)実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		

	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
現状	【前年度(                      年度)実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
状	【前年度(            25            年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック	汚泥
	全処理委託量	1287 t	31 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	1287 t	31 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t

	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	<p>(これまでに実施した取組)</p> <p>100%リサイクルを行う為、セメント・RPF業者への排出を実施。又、年一回業者に出向き監査を実施。</p>		

(第5面)

計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック	汚泥
	全 処 理 委 託 量	1380 t	31 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	1380 t	31 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>有価利用できるものに関しては少量でも継続実施。 100%リサイクル業者への排出・業者監査は継続実施。</p>		
事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1) 欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2) 欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3) 欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「 」を記入すること。
- 7 欄は記入しないこと。